

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果ダイジェスト

評価結果ダイジェスト

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼全体の評価講評 ▼サービス分析結果 ▼利用者調査結果 ▼事業者のコメント

平成18年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

事業所名称	未来工房にじ
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
評価者	修了者No.H0202080 修了者No.H0402064 修了者No.H0302037 修了者No.H0502007
評価実施期間	2006年8月31日～2006年12月28日

全体の評価講評

▶ 詳細はこちらから

💡 特に良いと思う点

- 福祉事業地域展開計画の実現に向け、地域住民の理解を深めるための取り組み
- 10種類にも及ぶ多様な作業種
- 社会的マナーの向上に向けた取り組み

✓ さらなる改善が望まれる点

- 事業展開と就業環境のバランスを
- 重要決定事項等の経過過程の丁寧な説明を
- 授産事業にも積極的なボランティア活用を

[このページの一番上へ](#)

サービス分析結果

▶ 詳細はこちらから

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
<b>1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している</b>	<b>A<sup>+</sup></b>
【講評】 <a href="#">続きを見る</a> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 知的障害者入所更生施設(にじの里)に併設して、平成15年4月に開設の通所授産施設...</li> <li>● 18年度の事業計画にも、自立と社会参加に向けた取り組みの一つに、「社会的ルールの...</li> <li>● 17年よりコミュニケーションプロジェクトにおいて、コミュニケーションの取りにくい...</li> </ul>	
<b>2. 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている</b>	<b>A<sup>+</sup></b>
【講評】 <a href="#">続きを見る</a> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 入所施設に併設の通所施設「未来工房にじ」には、就労継続事業(パン工房等4 作業)...</li> <li>● 就労継続事業(パン・豆腐・織工房等)の利用者への作業工賃は、資源を作業に参加した...</li> <li>● 各作業は、日中支援マニュアルを中心に行われており、それぞれの作業手順が示されてい...</li> </ul>	
<b>3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している</b>	<b>A</b>
【講評】 <a href="#">続きを見る</a> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 食事は、利用者が楽しみにしている時間でもあり、音楽を流し、話をしながら家庭的な雰...</li> <li>● 厨房業務は委託であり、施設の常勤の栄養士が主体性を持って献立をたてている。利用者...</li> <li>● 献立委員会があり、献立委員が利用者、職員に対し食事アンケート調査を行うなどして...</li> </ul>	
<b>4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている</b>	<b>A</b>
【講評】 <a href="#">続きを見る</a> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成18年度の事業計画の一つに「利用者の自立と社会参加に向けた取り組み」を掲げ、...</li> <li>● 分場(にじアート)は、16名と少人数での活動のため、利用者が協力して清掃や入所施...</li> <li>● 通所授産利用者の支援の仕方を統一するために基本事項を網羅した「日中支援マニュアル...</li> </ul>	
<b>5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている</b>	<b>A<sup>+</sup></b>
【講評】 <a href="#">続きを見る</a>	

- 嘱託医師が毎週1回相談日を設けて健康管理を行っている。更に高度医療を担う特定機能...
- 感染症対策マニュアル、症状別対応マニュアル、与薬マニュアル等が作成されている。特...
- 入所更生施設の「にじの里」で行う嘱託医による内科・歯科・精神科等医療に関する健診...

## 6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

A

【講評】 [続きを見る](#)

- 帰りの会等は職員がフォローするなかで複数の利用者が進めている。各グループの活動内...
- 行事やイベントも数多く催されている。恒例の一泊旅行も18年は北関東方面で風景や動...
- 「にじの里」に併設の「未来工房にじ」の授産環境等は、「にじの里」と同様に、設計の...

## 7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

A

【講評】 [続きを見る](#)

- 施設家族連絡会を3ヶ月毎(6月、9月、12月、3月)に行っている。連絡会には理事...
- 紙ベースで、法人にじの会として「にじの会だより」を発行し、法人の運営方針や法人傘...
- 駅に近く街中にある分場(未来工房にじアート)では、16名の利用者が織工房と紙工房...

## 8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

A

【講評】 [続きを見る](#)

- 地域の方々に広く知ってもらえるよう、地域のコミュニティセンター祭など地域で行われる...
- 通りに面して建つ木造のショップ「オー・ソレ・ミオ」では、工房で作ったパン、ジャム...
- 「住み慣れた地域の中で、生活のできる施設づくり」として、17年グループホーム「レ...

評点の内容  
▶ 詳細はこちらから

[このページの一番上へ](#)

## 利用者調査結果

▶ 詳細はこちらから

有効回答者数/利用者総数  
25/39

### 1. 施設の中は安全に動けるようになっていますか

はい	20人	どちらともいえない	0人	いいえ	2人	無回答・非該当	3人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

### 2. 食事はおいしいですか

はい	23人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

### 3. 仕事や活動は楽しいですか

はい	23人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

### 4. 職員はみんな同じようにあなたに対応してくれますか

はい	22人	どちらともいえない	0人	いいえ	2人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

### 5. 職員は、丁寧(乱暴な言葉を使ったり、命令したり、呼び捨てにしない)に接してくれますか

はい	23人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

### 6. あなたの気持ちをわかってくれる(相談できる)職員がいますか

はい	19人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	6人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

### 7. あなたが困ったとき、施設の職員は助けてくれますか

はい	18人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	7人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

### 8. 困ったことを外の人(第三者委員など)にも相談できますか

はい	11人	どちらともいえない	0人	いいえ	2人	無回答・非該当	12人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	-----

### 9. 工賃・給料の支払いのしくみは、わかりやすく説明されていますか

はい	17人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	7人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

### 10. 施設に、あなたが来る事を喜んでくれる仲間がいますか

はい	18人	どちらともいえない	0人	いいえ	3人	無回答・非該当	4人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

### 11. あなたの目標・計画について、いっしょに考えわかりやすく説明してくれましたか

はい	13人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	11人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	-----

12.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】利用する前に、施設での生活や支援内容など、知りたいことについてわかりやすい説明がありましたか

はい	4人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

13.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】施設のサービスなどの考え方を知る機会(説明、掲示など)がありましたか

はい	4人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

14.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】施設の説明を聞いて、自分で施設を利用することを決めましたか

はい	4人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

15.あなたは不満や要望を職員に気軽に話すことができますか

はい	17人	どちらともいえない	0人	いいえ	2人	無回答・非該当	6人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

16.職員は不満や要望に対してきちんと対応してくれていますか

はい	18人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	6人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

[このページの一番上へ](#)

## 事業者のコメント

\*以下の項目は事業者によって、自ら更新される情報です。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 全体の評価講評

全体の評価講評

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼全体の評価講評 ▼コメント

平成18年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

<<前の評価結果を見る

次の評価結果を見る>>

事業所名称	未来工房にじ
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
評価者	修了者No.H0202080 修了者No.H0402064 修了者No.H0302037 修了者No.H0502007
評価実施期間	2006年8月31日～2006年12月28日

全体の評価講評

💡特に良いと思う点

●福祉事業地域展開計画の実現に向け、地域住民の理解を深めるための取り組み

平成18年2月にじの会では、「地域と共に在る障害者施設」の具現化への取り組みとして、グループホーム・ケアホーム、及び未来工房にじアートの開設した。18年度は、第2未来工房の建設に向けて近隣住民との話し合いを積極的に行っている。そのような中、大沢にじの里近隣住民約300名にアンケートを実施した。回答者の8割から好意的な意見を得ることができた。アンケート結果は、施設側の取り組みについて見解も含め全て公表し、戸別に配布している。こうした真摯な取り組みで、地域住民の理解が深まっている。

●10種類にも及ぶ多様な作業種

10種類にも及ぶ豊富な作業に運動や音楽を盛り込みバラエティに富んだ活動を行っており、なかでもパン工房や食品加工工房では、毎年数種の新製品を開発している。無農薬原材料で季節のジャム等、また、外作業グループが作る腐葉土を地域の農家等に販売、農家からのトマト等季節の野菜や果物を施設に併設のショップでジャム等自主製品と一緒に販売する等、循環型の作業形態ともなっている。更に販路拡大を積極的に進めており、市の社会福祉協議会玄関ロビーやにじアート(分場)の玄関ロビーでの販売活動により意識高揚と工賃アップに繋がっている。

●社会的マナーの向上に向けた取り組み

利用者の自立と社会参加を図るため、コミュニケーション能力の向上と社会的マナーの向上に向けて取り組んでいる。特に言葉によるコミュニケーションの困難な利用者には、17年に引き続き「コミュニケーションプロジェクト」で、写真や絵等を用いて視覚的に分かりやすい手段で情報を伝える手法に取り組んでいる。また通所途上の公共交通機関の利用に際してのマナーや、街中の社会的ルール等に関して「社会生活力

👉さらなる改善が望まれる点

した支援を行っており、個々に応じた支援計画により社会生活の能力を身につけることを目指している。

●事業展開と就業環境のバランスを

にじの会の中期計画(地域展開計画)に基づき、グループホーム等新規事業を進めているが、業務量の増加や新たな支援に職員が十分に対応しきれない面もみられる。例えばグループホームへの移動、新たな支援技術獲得等、身体的にも精神的にも職員に負担がかかっている。また、休憩室、休憩時間がとりにくい等就業環境面でも改善が遅れている。人員配置は都基準より4割も多いが、事業展開と職員の就業意識とのバランスある人事管理の一層の配慮が望まれる。

●重要決定事項等の経過過程の丁寧な説明を

重要課題を設定や運営については、管理職会議を中心とした組織運営体制が確立しつつある。にじの会の経営のあり方として、職員に経営方針をオープンにし情報を共有化してゆく透明性と、重点課題を設定し、それを達成して行く結果責任の明確化を重点に考えている。にじの会ホーム、にじアート分場の開所に際して、平成18年1月に就労部門、生活部門に分けるなど組織を変更し、責任体制を明確にした。事業運営に関しては、管理職会議議事録等で明示しているが、決定経過など丁寧な説明の工夫が望まれる。

●授産事業にも積極的なボランティア活用を

[このページの一番上へ](#)

コメント

事前に事業所と評価手法並びに日程等に関し打ち合わせを行い、一連の手順等を計画し、職員に対し説明会をもった。利用者聴き取りは、未来工房にじ・分場での作業の妨げにならないように、作業状況に応じて4日間の日程の中で行った。また家族へのアンケート調査と職員に対して定められた分析シートとは別にヒヤリングを行うこととした。定例の家族連絡会の席上で家族に協力依頼し了解を得た。職員の分析シートは鍵付回収箱を用意した。家族アンケートは郵送により回収した。なお意思疎通を図るための一環として評価者の写真入りポスターを掲示した。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 組織マネジメント分析結果

## 組織マネジメント分析結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

- ▼リーダーシップと意思決定
- ▼経営における社会的責任
- ▼利用者意向や地域・事業環境の把握と活用
- ▼計画の策定と着実な実行
- ▼職員と組織の能力向上
- ▼情報の保護・共有
- ▼カテゴリ1～7に関する活動成果

平成18年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

<<前の評価結果を見る

次の評価結果を見る>>

事業所名称	未来工房にじ
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
事業評価実施期間	2006年9月12日～2006年12月28日

### リーダーシップと意思決定

1. 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	評点
1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	A
2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	A
3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	A
【講評】詳細はこちら	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会福祉法人にじの会は、「住み慣れた地域に障害者が働く場と生活する場をつくりたい...</li> <li>● 18年度の基本方針に基づいて、利用者本人、家族に対し理解を深め、施設の運営方針の...</li> <li>● 重要課題を設定や運営については、管理職会議を中心とした組織運営体制が確立しつつあ...</li> </ul>	<p>評点の内容</p> <p>▶ 詳細はこちらから</p>

このページの一番上へ

### 経営における社会的責任

1. 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	評点
1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	A
2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	A
3. 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている	A
2. 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	評点
1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	A
2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	A
3. 地域の関係機関との連携を図っている	A
【講評】詳細はこちら	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 法人にじの会は福祉職員としての倫理要綱を定めている。①生命の尊厳②人権の擁護③個...</li> <li>● 実習生受け入れ規定は、研修のための実習生と利用を予定している実習生に分けて、基本...</li> <li>● 法人の知的障害者福祉事業地域展開計画に基づいて自治体と協力体制を取っている。地域...</li> </ul>	<p>評点の内容</p> <p>▶ 詳細はこちらから</p>

このページの一番上へ

### 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1. 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	評点
1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	A
2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	A
3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	A+
【講評】詳細はこちら	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治体や都の苦情受付窓口を紹介している。市の役所地域福祉課、苦情処理第三者委員に...</li> <li>● 利用者一人ひとりの要求に対して、施設は毎月誕生会の際に12:30から13:30ま...</li> <li>● にじの会は地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を踏まえ、自治体との連携の下、第2...</li> </ul>	<p>評点の内容</p> <p>▶ 詳細はこちらから</p>

このページの一番上へ

## 計画の策定と着実な実行

1. 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	評点
1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	A
2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	A
3. 着実な計画の実行に取り組んでいる	A+
2. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	評点
1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	A
【講評】 <a href="#">詳細はこちら</a>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>法人の中期計画に基づき、自治体との連携の下、地域需要に応じた福祉サービス提供に努...</li> <li>利用者個々の要求をいかに職員が把握できるかの取り組みをしている。言語コミュニケー...</li> <li>利用者の安全確保・向上を図るため18年度は再発防止・予防対策に重点的に取り組んで...</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>評点の内容</b>              ▶ <a href="#">詳細はこちら</a> </div>

[このページの一番上へ](#)

## 職員と組織の能力向上

1. 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	評点
1. 事業所にとって必要な人材構成にしている	A+
2. 職員の質の向上に取り組んでいる	A
2. 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	評点
1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	A
2. 職員のやる気向上に取り組んでいる	A
【講評】 <a href="#">詳細はこちら</a>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>昇進、適材適所の人員配置、職員の質の向上を目的としたオープンな人事制度がある。評...</li> <li>職員の研修と専門職としてのスキルアップを図るため、研修の機会を保障し、勤務体制を...</li> <li>にじの会の中期計画(地域展開計画)に基づき、グループホーム等新規事業を進めている...</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>評点の内容</b>              ▶ <a href="#">詳細はこちら</a> </div>

[このページの一番上へ](#)

## 情報の保護・共有

1. 情報の保護・共有に取り組んでいる	評点
1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	A
2. 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	A
【講評】 <a href="#">詳細はこちら</a>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>施設情報を整理し、利用者に情報が的確に共有化され、支援が円滑に行われるよう、毎週...</li> <li>社会福祉法人にじの会は、利用者が安心して生活、通所して頂くために、利用者・ご家族...</li> <li>「施設内掲示、各種機関紙での氏名と写真の掲示、掲載について」の文書を出している...</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>評点の内容</b>              ▶ <a href="#">詳細はこちら</a> </div>

[このページの一番上へ](#)

## カテゴリ1～7に関する活動成果

1. 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A+
【改善の成果】 <a href="#">詳細はこちら</a>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>にじの会の中期計画(地域展開計画)に基づき、自治体との連携の下、着実に計画実行に...</li> </ul>	
2. 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 <a href="#">詳細はこちら</a>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>グループホームと分場の開設と自立支援法施行に伴い、「にじの里」と「にじの会ホー...</li> </ul>	
3. 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A+
【改善の成果】 <a href="#">詳細はこちら</a>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>工房毎に細かく書かれたマニュアルは、新人職員にとって大きな糧になっている。また、...</li> </ul>	

4. 前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	<b>A</b>
<b>【改善の成果】</b> <a href="#">詳細はこちら</a> <ul style="list-style-type: none"> <li>● グループホーム等の事業展開のための資金約2億円は、寄付金と経常資金余剰で確保でき...</li> </ul>	
5. 前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	<b>A</b>
<b>【改善の成果】</b> <a href="#">詳細はこちら</a> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 利用者一人ひとりの相談や要望対し、毎月法人傘下の全ての施設の利用者と職員が「にじ...</li> </ul>	
<b>【講評】</b> <a href="#">詳細はこちら</a> <ul style="list-style-type: none"> <li>● にじの会の中期計画(地域展開計画)に基づき、自治体との連携の下、着実に計画実行に...</li> <li>● 工房毎に細かく書かれたマニュアルは、新人職員にとって大きな糧になっている。また、...</li> <li>● 利用者一人ひとりの要求に対し月1回、約1時間半ほど「いろいろ相談室」を開き苦情解...</li> </ul>	



[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

**財団法人東京都福祉保健財団**

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > サービス分析結果

サービス分析結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼サービス提供のプロセス項目 ▼サービスの実施項目

平成18年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

<<前の評価結果を見る

次の評価結果を見る>>

事業所名称	未来工房にじ
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
事業評価実施期間	2006年9月12日～2006年12月28日

サービス提供のプロセス項目

サービス情報の提供	評点
1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している	A
<p>【講評】詳細はこちら</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>未来工房にじのサービス内容の情報提供方法としては、「ホームページ」、「にじの会パ...</li> <li>事業所の最新情報は、「にじの会だより」等で関係機関に提供している。内容は事業報告...</li> <li>見学は、週3日の見学日を設定して随時受け入れており、養護学校の先生や家族と共に...</li> </ul>	<p>評点の内容</p> <p>▶ 詳細はこちらから</p>
サービスの開始・終了時の対応	評点
1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている	A
2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している	A
<p>【講評】詳細はこちら</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>未来工房にじでは成年後見人制度を利用して契約が結べるように制度利用を推奨しており...</li> <li>利用開始時には、利用申込書、健康医療調査表、食事調査表、面談記録や前施設・養護学...</li> <li>17年度には、新たに未来工房にじの分場「にじアート」が開設された。また、同法人が...</li> </ul>	<p>評点の内容</p> <p>▶ 詳細はこちらから</p>
個別状況に応じた計画策定・記録	評点
1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している	A
2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している	A
3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している	A
4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している	A
<p>【講評】詳細はこちら</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別支援計画については、7～8月に中間見直しを行い、就労能力の向上や身辺自立の拡...</li> <li>利用者の日中活動記録については、スタッフがパソコン入力し月ごとに個人ファイルに保...</li> <li>利用者の状況については、家族からの連絡帳を基本として毎日の朝会で情報を共有し朝会...</li> </ul>	<p>評点の内容</p> <p>▶ 詳細はこちらから</p>
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	評点
1. 利用者のプライバシー保護を徹底している	A
2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している	A
<p>【講評】詳細はこちら</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の個人情報保護については、サービス利用開始時に、「個人情報保護に関する基本...</li> <li>利用者支援については、支援スタッフ倫理綱領を策定し、生命の尊厳、人権の擁護、個人...</li> <li>利用者特性を配慮して、支援者主導ではなく利用者の立場に立った支援を心がけている...</li> </ul>	<p>評点の内容</p> <p>▶ 詳細はこちらから</p>
事業所業務の標準化	評点
1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	A+
2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	A
3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	A+
<p>【講評】詳細はこちら</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「未来工房にじ」では、17年発足したマニュアル委員会が日中支援マニュアルを作成し...</li> <li>職員が一定レベルの知識や技術が学べるように、研修委員会が階層別のプログラムを作成...</li> <li>利用者の安全の確保に対しては、法人全体で18年度は重点的に取り組んでおり、入所施...</li> </ul>	<p>評点の内容</p> <p>▶ 詳細はこちらから</p>

## サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している	A <sup>+</sup>
<p>【講評】<a href="#">詳細はこちら</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知的障害者入所更生施設(にじの里)に併設して、平成15年4月に開設の通所授産施設...</li> <li>18年度の事業計画にも、自立と社会参加に向けた取り組みの一つに、「社会的ルール」...</li> <li>17年よりコミュニケーションプロジェクトにおいて、コミュニケーションの取りにくい...</li> </ul>	
2. 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A <sup>+</sup>
<p>【講評】<a href="#">詳細はこちら</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入所施設に併設の通所施設「未来工房にじ」には、就労継続事業(パン工房等4 作業)...</li> <li>就労継続事業(パン・豆腐・織工房等)の利用者への作業工賃は、資源を作業に参加した...</li> <li>各作業は、日中支援マニュアルを中心に行われており、それぞれの作業手順が示されてい...</li> </ul>	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
<p>【講評】<a href="#">詳細はこちら</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食事は、利用者が楽しみにしている時間でもあり、音楽を流し、話をしながら家庭的な雰...</li> <li>厨房業務は委託であり、施設の常勤の栄養士が主体性を持って献立をたてている。利用者...</li> <li>献立委員会があり、献立委員が利用者、職員に対し食事アンケート調査を行うなどして...</li> </ul>	
4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている	A
<p>【講評】<a href="#">詳細はこちら</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成18年度の事業計画の一つに「利用者の自立と社会参加に向けた取り組み」を掲げ、...</li> <li>分場(にじアート)は、16名と少人数での活動のため、利用者が協力して清掃や入所施...</li> <li>通所授産利用者の支援の仕方を統一するために基本事項を網羅した「日中支援マニュアル...</li> </ul>	
5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている	A <sup>+</sup>
<p>【講評】<a href="#">詳細はこちら</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>嘱託医師が毎週1回相談日を設けて健康管理を行っている。更に高度医療を担う特定機能...</li> <li>感染症対策マニュアル、症状別対応マニュアル、与薬マニュアル等が作成されている。特...</li> <li>入所更生施設の「にじの里」で行う嘱託医による内科・歯科・精神科等医療に関する健診...</li> </ul>	
6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている	A
<p>【講評】<a href="#">詳細はこちら</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>掃りの会等は職員がフォローするなかで複数の利用者が進めている。各グループの活動内...</li> <li>行事やイベントも数多く催されている。恒例の一泊旅行も18年は北関東方面で風景や動...</li> <li>「にじの里」に併設の「未来工房にじ」の授産環境等は、「にじの里」と同様に、設計の...</li> </ul>	
7. 施設と家族等との交流・連携を図っている	A
<p>【講評】<a href="#">詳細はこちら</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設家族連絡会を3ヶ月毎(6月、9月、12月、3月)に行っている。連絡会には理事...</li> <li>紙ベースで、法人にじの会として「にじの会だより」を発行し、法人の運営方針や法人傘...</li> <li>駅に近く街中にある分場(未来工房にじアート)では、16名の利用者が織工房と紙工房...</li> </ul>	
8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている	A
<p>【講評】<a href="#">詳細はこちら</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方々に広く知ってもらえるよう、地域のコミュニィセンター祭など地域で行われる...</li> <li>通りに面して建つ木造のショップ「オー・ソレ・ミオ」では、工房で作ったパン、ジャム...</li> <li>「住み慣れた地域の中で、生活のできる施設づくり」として、17年グループホーム「レ...</li> </ul>	

評点の内容  
▶ [詳細はこちらから](#)

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評価の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 利用者調査結果

## 利用者調査結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼調査概要 ▼調査結果全体のコメント ▼調査結果

平成18年度

知的障害者通所授産施設[経過措置]

<<前の評価結果を見る

次の評価結果を見る>>

事業所名称	未来工房にじ
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
利用者調査実施期間	2006年9月28日～2006年10月31日

### 調査概要

- **調査対象:** 利用者定員39名(男女比は男性56%、女性44%)のうち、「未来工房にじ」の23名と、分場(未来工房にじアート)の16名、計39名全員を対象に直接聴き取り調査を行った。また利用している全世帯の家族にアンケート調査を依頼した。
- **調査方法:** 「未来工房にじ」と「分場」に評価者が伺って、作業及び諸活動の妨げや、中断するような雰囲気にならないよう職員の指示を得るなかで、1対1で利用者のペースに沿って聴き取りを行った。また休憩時間や昼食を共に摂るなどして意思疎通を図った。
- 利用者総数: 39人
- 共通評価項目による調査対象者数: 39人
- 共通評価項目による調査の有効回答者数: 25人
- 利用者総数に対する回答者割合(%) : 64.1%
- 調査項目: [共通評価項目](#)

[このページの一番上へ](#)

### 調査結果全体のコメント

利用者の聴き取り結果からは、16項目の設問のうち、設問1「施設の中は安全に動けるようになっていきますか」等5項目にわたり80%超が「はい」と意志表示しており、中でも設問2「食事はおいしいですか」、設問3「仕事や活動は楽しいですか」、設問5「職員は丁寧に接してくれますか」は、有効回答数25名のうち23名(92%)の方が、「施設の食事はおいしい」、「残したことはない」など自然と笑顔が出るなど、職員の対応なども含め、パンや豆腐づくり、織りなど利用者の意向に沿った作業に対する満足感が現われている。一方で設問8「困ったことを外の人にも相談できますか」は、「はい」の意志表示に比し「無回答」等が上回っており、家族や学校の先生などと話をしているとの声も聞かれるものの、「困ったこと」等に対する理解が困難か、或いは感心も薄いようにも見受けられた。設問11「目標・計画と一緒に考え・・・も計数的に「はい」の意志表示は少ないものの、パンや豆腐づくり、織りなどの作業を楽しく意欲を持って行っている姿が見受けられた。家族へのアンケートでは、個別支援計画、行事やイベントへの家族の参加、職員の利用者への対応に関して高い満足度が現われている。

[このページの一番上へ](#)

### 調査結果

#### 1.施設の中は安全に動けるようになっていきますか

はい	20人	どちらともいえない	0人	いいえ	2人	無回答・非該当	3人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

利用者は、未来工房にじのパン工房、豆腐工房、食品加工工房、創作工房、園芸グループ等多くの作業種で、分場(未来工房にじアート)では、織工房、紙工房で製品作りに励んでいる。通所方法は、バス等公共交通機関利用がおおよそ6割、施設車等利用がおおよそ4割で、交通機関に関する利用者の声として「バスで来ている。怪我をしたことはない」、「事故にあわないように気を付けている。電車も危ないので気を付けている」等。工房の作業では「パン作りで危ないことはないし、床も滑らない」、「鉄を使っているが怪我をしたことない」等の声が聞かれた。

#### 2.食事はおいしいですか

はい	23人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

入所更生施設に併設の「未来工房にじ」の利用者は、施設の厨房で調理した食事を2階の食堂で入所者と一緒に摂っている。分場(未来工房にじアート)の利用者は、昼食時に厨房から配送の食事を、利用者、職員で配膳等をして食堂で食事を摂っている。利用者の声として「施設の食事はおいしい」、「好きなものはいろいろあります」、「楽しみにしている、残さない」、「おいしい、肉がすすき、家の食事よりおいしい」等、笑顔で話す声の他に、カレー、スパゲッティ、ご飯、パン等、好きな食べ物に関する声なども多く聞かれた。

#### 3.仕事や活動は楽しいですか

はい	23人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

多数の工房があり、パン作りの利用者からは、「パンを作っています、あんパンと海老パン、シールも貼っている」、「パンを丸めている」、「パン工房の仕事、スタッフが好き」、「ジャム作りを9時30分から始める」等の声や、「豆腐作りをしている、つくった豆腐は食堂でも出る」、「木綿豆腐、絹ごし豆腐を作っている」等の声の他にも、「織り、糸、布巻など楽しい」、「紙加工」、「紙ちぎりは楽しい、絵も好き」、「ここは全部楽しい」等の声も聞かれた。なかには、「勝手にやりすぎて叱られた」と言ったような声もあった。

**4.職員はみんな同じようにあなたに対応してくれますか**

はい	22人	どちらともいえない	0人	いいえ	2人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

**【コメント】**

25名のうち、22名(9割弱)の利用者が「はい」と意志表示しているように、「みんな優しい」との声が圧倒的に多く、「叱られない」、「怖いことはありません」、「幸せになれる」と言った声も多く聞かれた。一方で「一人言うことを聞いてくれない人がいる」との声もあった。

**5.職員は、丁寧(乱暴な言葉を使ったり、命令したり、呼び捨てにしない)に接してくれますか**

はい	23人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

**【コメント】**

25名のうち、23名(9割超)の利用者が「はい」と意志表示しているように、「丁寧です」、「嫌いな人はいない」、「丁寧に教えてくれる」、「みんな優しい」、「怒ったりしない」、「ここは好きです」等の声の他に「呼び捨てにする人はいないけれど、全部が優しいわけではない」との声も聞かれた。

**6.あなたの気持ちをわかってくれる(相談できる)職員がいますか**

はい	19人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	6人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

**【コメント】**

利用者からは、「話をしている」、「スタッフに相談できる」、「この人は大好き」、「平均的に話をしている」、「何でも相談」が月に1回あるけれどあまり行っていない」等の声が聞かれたが、設問の「気持ちをわかってくれる」とか「相談できる」というような漠然とした事柄に関しての感心が薄いように見受けられた。

**7.あなたが困ったとき、施設の職員は助けてくれますか**

はい	18人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	7人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

**【コメント】**

「はい」と意志表示したなかで、「仕事で困ったことはありません」と言う声が多く聞かれた。なかには「豆腐作りは何でも出来る、みんなにも教えている」と言うように仕事に自信と責任を持っている様子が見受けられた。その他には「職員さんが一緒にやってくれる」と言う声や、「みんな話をすることが出来るが、ある人の話が食い違うので、最終的には施設長に聞く」と言った声も聞かれたが、仕事に取り組んでいる様子からは工房のそれぞれの仕事上でスタッフが常に目配りをしており、仕事上で特に困ったことはないように見受けられた。

**8.困ったことを外の人(第三者委員など)にも相談できますか**

はい	11人	どちらともいえない	0人	いいえ	2人	無回答・非該当	12人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	-----

**【コメント】**

利用者は「困ったことはない」、「家族と話している」、「学校の先生にも相談する」、「一般的なことを役所の人と話をする」、「何かあったら施設長に話をする」等の声が聞かれた。施設では苦情相談・第三者委員等の相談体制と氏名等をスタッフルームのガラス窓に廊下向きに掲示して啓蒙に努めており、利用者の中には第三者委員の名前や相談したことを休憩時間中に話している光景もみられたが、一般的には「外の人」とか「第三者委員など」等の漠然とした、具体性のないことに対しては理解が困難か、感心が薄いように見受けられた。

**9.工賃・給料の支払いのしくみは、わかりやすく説明されていますか**

はい	17人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	7人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

**【コメント】**

就労支援事業のパン工房や豆腐工房、織工房等で働いている利用者からは「給料は袋に入っている」、「給料でCDを買います」、「バス代、飲み物も買う」、「旅行やぶどう狩り」、「もうちょっとほしいけど」、「預金はしない」、「説明はない」等の声が聞かれた。一方で生活介護事業に属する紙工房、創作工房や外作業グループ、整美グループ等では、工賃としての支給はないので、利用者からは「給料はもっていない」と言ったコメントがあった。

**10.施設に、あなたが来る事を喜んでくれる仲間がいますか**

はい	18人	どちらともいえない	0人	いいえ	3人	無回答・非該当	4人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

**【コメント】**

利用者の声に「みんな仲良しです」、「嫌な人はいない」、「友達と一緒に」、「家にいるよりここに来ることが楽しい」等と言って、友達の名前を挙げる利用者、或いは職員の名前を挙げる利用者や、皆で行くバス旅行や毎月全施設の利用者と職員が「大沢にじの里」に集って行う誕生会を楽しみにしている様子が見られた。その他に特に意志表示をしないものの仲間との活動を楽しんでいる様子が見られた。

**11.あなたの目標・計画について、いっしょに考えわかりやすく説明してくれましたか**

はい	13人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	11人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	-----

**【コメント】**

「パンも作れるけれど、豆腐作りを続けていきたい、今の仕事がいい」、「ここで何時までもパン作りをしたい」、「自分でパン屋さんをやりたい」、「落ち着いてやるように慣れるのが目標です」、「自分の好きな仕事をしたい」、「楽しく仕事することが目標です」、「ずっとここに働きたい」等のコメントが聞かれたが、「目標・計画」と言うことに関しては感心も薄いためか意志表示をみせない利用者も多く見られた。

**12.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】利用する前に、施設での生活や支援内容など、知りたいことについてわかりやすい説明がありましたか**

はい	4人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

**【コメント】**

「はい」と意志表示の利用者のなかで、コメントは一人であった。

**13.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】施設のサービスなどの考え方を知る機会(説明、掲示など)がありましたか**

はい	4人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

**【コメント】**

「はい」と意志表示しているものの利用者のコメントはなかった。

**14.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】施設の説明を聞いて、自分で施設を利用することを決めましたか**

はい	4人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

**【コメント】**

「はい」としているものの、コメントは「進路の先生にも相談した」、「一人で決めた」等であった。

**15.あなたは不満や要望を職員に気軽に話すことができますか**

はい	17人	どちらともいえない	0人	いいえ	2人	無回答・非該当	6人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

「不満はありません」、「不満や要望はない」、「職員は話を聞いてくれる」、「不満などはない、自分で心がけている」、「職員にはあまり仕事のことは話さない」等の声が聞かれた。一方で意志表示をみせない利用者もあった。毎月1回、大沢にじの里を会場として、全施設の利用者と職員が会して行われる誕生会の日に、「なんでも相談」の場を設けており、気軽に相談に応じられるよう工夫している。

**16.職員は不満や要望に対してきちんと対応してくれていますか**

はい	18人	どちらともいえない	0人	いいえ	1人	無回答・非該当	6人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

利用者からは「いつでも話が出来る」、「いつもちゃんとやってくれる」、「紙工房もやりたいと言ったら、是非やった方がいいと職員に言われた」等の声が聞かれた。一方で意志表示をみせない利用者もあった。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > リーダーシップと意思決定



リーダーシップと意思決定



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

社会福祉法人にじの会は、「住み慣れた地域に障害者が働く場と生活する場をつくりたい」との法人設立趣旨(理念)を掲げている。これは、誰もが互いに個人を大切にしたい、障害のある人も自分の生活スタイルを理解され地域の中で自分の力を出して生きて行くことを実現するため、地域において必要とされる福祉事業の担い手となりたいとの思いである。18年度の基本方針として、「自立と社会参加」、「良好な近隣関係の構築により、地域展開の構築」、「継続就労の場の確保」、「新事業体系での経営基盤の確立」、「支援能力の向上」を掲げている。

18年度の基本方針に基づいて、利用者本人、家族に対し理解を深め、施設の運営方針の共有化を図るため、家族連絡会を3か月毎に開催している。施設家族連絡会の一例としては、タイムスケジュールを作成し、新役員体制の説明、新入所者、入所予定者紹介、各フロアの支援方法の説明、各日中活動グループの内容などの説明があり、その後20～30分ほど質疑応答を入れ、利用者家族との信頼協力関係を目標とし、また、互いに情報、運営方針の共有化を図っている。

重要課題を設定や運営については、管理職会議を中心とした組織運営体制が確立しつつある。にじの会の経営のあり方として、職員に経営方針をオープンにし情報を共有化してゆく透明性と、重点課題を設定し、それを達成して行く結果責任の明確化を重点に考えている。にじの会ホーム、にじアート分場の開所に際して、平成18年1月に就労部門、生活部門に分けるなど組織を変更し、責任体制を明確にした。事業運営に関しては、管理職会議議事録等で明示しているが、決定経過など丁寧な説明が不足している面も見られる。

[このページの一番上へ](#)

1-1-1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している

評点	A
標準項目	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	○ 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
A+の取り組み	

1-1-2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

評点	A
標準項目	○ 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている
	○ 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
A+の取り組み	

1-1-3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点	A
標準項目	○ 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている
	○ 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	○ 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 経営における社会的責任



経営における社会的責任

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

法人にじの会は福祉職員としての倫理要綱を定めている。①生命の尊厳②人権の擁護③個人の尊重④地域社会との連携⑤専門的な支援等記載されている。また、法人として「にじの会だより」を4月、7月、10月、1月の年4回に約1300部発行している。施設運営方針や行事、利用者の活動状況等を写真等使い紹介している。また、通所施設として「未来工房にじだより」が毎月発行されている。さらに、にじの会後援会だより「にじ」も発行されている。ホームページは、カラー写真もふんだんに使い分かりやすい内容となっている。

実習生受け入れ規程は、研修のための実習生と利用を予定している実習生に分けて、基本的考え方、実習生の種類、受け入れ体制、実習の結果報告などが盛り込まれている。例えば、教員免許取得実習生は障害者を理解する実習、保育士の体験実習は支援方法実習などの目的に合わせてプログラムを変えている。実習生が入ることによって、職員が新たな問題点や気づき発見の機会ともなっている。行事時ボランティアを除けば「織」のボランティアがいるもののその数が少ないため、新たなボランティア確保のための取組をしている。

法人の知的障害者福祉事業地域展開計画に基づいて自治体と協力体制を取っている。地域のNPOといくつかの障害者の作業所が連携し、就労支援、生活支援双方を行う就労支援センターの運営に向けた運営協議会にメンバーとして加わっている。また、市の施設連絡会、福祉計画市民会議のメンバーに携わることにより、自治体との協力関係も強化されてきている。地域の住民協議会の街づくり研究会の参加、地域住民への公開講座を開催、地域の障害者への相談など地域福祉に貢献している。

[このページの一番上へ](#)

2-1-1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

評点	A
標準項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している</li> <li>全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるよう取り組んでいる</li> </ul>
A+の取り組み	

2-1-2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評点	A
標準項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるよう取り組んでいる</li> <li>透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している</li> </ul>
A+の取り組み	

2-1-3. 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている

評点	A
標準項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている</li> <li>効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している</li> </ul>
A+の取り組み	

2-2-1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点	A
標準項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所の機能や専門性は、利用者にと支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)</li> <li>地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている</li> </ul>
A+の取り組み	

2-2-2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点	A
標準項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している</li> <li>ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)</li> <li>ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている</li> </ul>
A+の取り組み	

### 2-2-3. 地域の関係機関との連携を図っている

評点	A	
標準項目	<input type="checkbox"/>	地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している
	<input type="checkbox"/>	地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

自治体や都の苦情受付窓口を紹介している。市の役所地域福祉課、苦情処理第三者委員による相談や第三者委員会のオンブズマン機能等、事業者以外の相談先を遠慮なく利用者が利用できることを伝え、利用者一人ひとりの苦情に対する解決に取り組んでいる。こうした制度以外に日常的に、利用者一人ひとり意見・要望・苦情に対応する為に看護師、栄養士が連携をはかり食事調査表、利用者からの食事アンケート等多様な方法で把握し、迅速に対応している。

利用者一人ひとりの要求に対して、施設は毎月誕生会の際に12:30から13:30まで「いろいろ相談室」を開き苦情解決に当たっている。職員3名が対応し、毎月3~5人程度の相談がある。幾人かの相談者がグループホームへ移行したため、相談者が少なくなったという悩みもある。その場で解決できる苦情は「いろいろ相談」で解決するが、できない場合には、管理者に相談することもある。話ができない利用者の苦情に対しては、家族・後見人が「重要事項説明書」に記載されている苦情相談窓口に苦情を申し立てることもできる。

にじの会は地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を踏まえ、自治体との連携の下、第2未来工房にじの開設を実現するとともに、市内の事業所との協力体制を進めている。また大沢にじの里周辺住民へ300世帯に苦情、要望のアンケートを実施し、幾つかの指摘された改善点を検討している。好意的なメッセージが多く寄せられ地域の中での施設づくりは一定の成果をあげている。このアンケート結果は地域住民に報告している。

[このページの一番上へ](#)

3-1-1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点	A
標準項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている</li> <li>利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる</li> </ul>
A+の取り組み	

3-1-2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点	A
標準項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる</li> <li>事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している</li> <li>利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる</li> </ul>
A+の取り組み	

3-1-3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点	A+
標準項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる</li> <li>福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる</li> <li>事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している</li> </ul>
A+の取り組み	<p>地域における知的障害者の生活、日中の場の受容と施設の増設の必要数予想に基づき、自治体との連携の下に市内の事業者との協力調整を行い、にじの会の事業展開計画を整えている。今回初めて大沢にじの里周辺300世帯に、「にじの会」に対する苦情や要望を聞くアンケートを実施した。多くの方から、好意的なメッセージが寄せられ、一定の成果を上げていることがわかった。住民からの要望や指摘事項について、真摯に応え、アンケート結果も各戸に報告している。</p>

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 計画の策定と着実な実行



計画の策定と着実な実行

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

法人の中期計画に基づき、自治体との連携の下、地域需要に応じた福祉サービス提供に努め、着実な計画実行に取り組んでいる。平成18年2月に三鷹市上連雀2丁目に「にじの会ホーム」を開所するとともに、日中活動の場として「未来工房にじアート」(分場)を三鷹市下連雀3丁目に開所した。また「第2未来工房にじ」の開所を予定している。利用者ニーズを満たすため、地域需要に応じた福祉サービスの提供に努めている。

利用者個々の要求をいかに職員が把握できるかの取り組みをしている。言語コミュニケーションの困難な重度利用者のコミュニケーション能力向上に重点的に取り組んでいる。写真・ひらがな・数字で、1ヶ月の予定、1日のスケジュールを視覚的アプローチにより、コミュニケーションが困難な利用者の支援を行っている。生活支援、とりわけ、社会的マナー、ルールが必要との認識のもとに18年より、社会参加・社会生活支援に力を入れている。

利用者の安全確保・向上を図るため18年度は再発防止・予防対策に重点的に取り組んでいる。職員と施設責任者で構成する安全委員会が設けられている。日常生活の中で起こる事故報告は、ひやり・はつとなどで対応している。職員のみで、事故に対する教訓・反省を踏まえて自分の分析・報告・計画を立て、自分達がどのような取り組みをすればいいのか、年一回開催される安全大会で、活動状況の報告を行っている。

[このページの一番上へ](#)

評点	<b>A</b>
標準項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している</li> <li>○ 年度単位の計画を策定している</li> <li>○ 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる</li> </ul>
A+の取り組み	

評点	<b>A</b>
標準項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている</li> <li>○ 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている</li> <li>○ 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策</li> <li>○ 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している</li> </ul>
A+の取り組み	

評点	<b>A+</b>
標準項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 取り組みの体制、職員の役割や活動内容などを明示している</li> <li>○ 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている</li> <li>○ 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している</li> <li>○ 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら進めている</li> </ul>
A+の取り組み	地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を踏まえ、自治体との連携の下に、18年度において、「にじの会ホーム」及び「未来工房にじアート」(分場)を開所した。18年度「第2未来工房にじ」の開所に向け取り組んでいる。「未来工房にじ」は、自立支援法の「就労継続支援事業」と「就労移行支援事業」を行う計画がある。また、入所施設「にじの里」は「生活介護」を予定している。このような移行を踏まえ、重度利用者にはコミュニケーション向上、中・軽度の障害者には社会マナー向上を重

評点	<b>A</b>
標準項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している</li> <li>○ 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている</li> </ul>
A+の取り組み	

標準項目		発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)  
[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 職員と組織の能力向上



職員と組織の能力向上

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

昇進、適材適所の人員配置、職員の質の向上を目的としたオープンな人事制度がある。評価理由の報告と複数の評価者とその選択など斬新な人事評価制度となっている。また、自己申告での提案や要望にも適切に回答している。このシステムにより、昇進と適材適所の人員配置が可能となり、事業展開のスムーズな実施ができるようになっている。また、評価者としての管理職の成長・育成にも役立っている。18年1月に内部の組織改正を行い、就労継続担当、生活介護担当に主任・リーダーを配置するなど、人材育成の成果も出てきた。

職員の研修と専門職としてのスキルアップを図るため、研修の機会を保障し、勤務体制を工夫し、研修参加の機会を増やしている。内外の研修プログラム、経験年数に応じた研修プログラム、各自スタッフの研修プログラムを計画実行している。自立支援法を視野に入れて、生活介護担当と就労継続担当に分割した。これによる支援能力の向上のため、積極的に外部・内部研修を実施し、スタッフ一人ひとりの専門性の向上と支援技術の向上を図っている。

にじの会の中期計画(地域展開計画)に基づき、グループホーム等新規事業を進めているが、業務量の増加や新たな支援に職員が十分に対応しきれない面もみられる。例えばグループホームへの移動、新たな支援等、身体的にも精神的にも職員に負担がかかっている。また休憩室、休憩時間がとりにくい等就業環境面でも改善が遅れている。人員配置は都基準より4割も多いが、事業展開と職員の就業意識とのバランスある人事管理の一層の配慮が望まれる。

[このページの一番上へ](#)

5-1-1. 事業所にとって必要な人材構成にしている

評点	A+
標準項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している</li> <li>○ 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている</li> <li>○ 適材適所の人員配置に取り組んでいる</li> </ul>
A+の取り組み	昇進、適材適所の人員配置、職員の質の向上を目的とした法人独自のオープンな人事制度がある。評価理由の報告と複数の評価者とその選択など斬新な人事評価制度となっている。また、自己申告での提案や要望にも適切に回答している。このシステムにより、昇進と適材適所の人員配置が可能となり、事業展開のスムーズな実施ができるようになっている。また評価者としての管理職の成長・育成にも役立っている。

5-1-2. 職員の質の向上に取り組んでいる

評点	A
標準項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している</li> <li>○ 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している</li> <li>○ 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている</li> <li>○ 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している</li> <li>○ 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している</li> </ul>
A+の取り組み	

5-2-1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点	A
標準項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員の判断で実施可能な範囲と、それを越えた場合の対応方法を明示している</li> <li>○ 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる</li> <li>○ 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる</li> </ul>
A+の取り組み	

5-2-2. 職員のやる気向上に取り組んでいる

評点	A
標準項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賞金・昇進・昇格・賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている</li> <li>○ 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる</li> <li>○ 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる</li> <li>○ 福利厚生制度の充実に取り組んでいる</li> </ul>
A+の取り組み	

[▲このページのトップへ](#)

---

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

---

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 情報の保護・共有



情報の保護・共有



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

施設情報を整理し、利用者に情報が正確に共有化され、支援が円滑に行われるよう、毎週各フロアの主任及びリーダーによる会議を開催、また施設長及び主任会議を定期的で開催し、生活、日中、グループホームの情報の共有化を図っている。所内のシステム化、LANで他部署との連絡できているが、事業所と分場との連絡は紙面による活字情報に頼っており、資料・会議録などのファイリング、スリム化、簡素化の必要があると思われる。

社会福祉法人にじの会は、利用者が安心して生活、通所して頂くために、利用者・ご家族の個人情報の保護に関する規定を明示している。①個人情報の取得・利用 ②個人情報の第三者提供 ③情報の安全管理について ④個人情報保護に関する法令の遵守 ⑤個人情報の継続的改善 等の内容となっている。また、にじの会は利用者・ご家族から提供いただいた個人情報を目的以外に使用しないという同意書を明示している。

「施設内掲示、各種機関紙での氏名と写真の掲示、掲載について」の文書を出している。利用者の氏名、顔写真の掲示については、行事などの写真は施設内のみとし、「にじの里」など法人発行の機関紙に限定し、これら以外の掲示・掲載については利用者及び家族の同意を得ている。また「未来工房にじ」では、「未来工房にじだより」を毎月発行し、家族に同意を得ている。

[このページの一番上へ](#)

7-1-1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

評点	A
標準項目	○ 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
	○ 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している
	○ 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
A+の取り組み	

7-1-2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している

評点	A
標準項目	○ 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
	○ 個人情報の保護に関する規定を明示している
	○ 開示請求に対する対応方法を明示している
	○ 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

[平成20年度評価結果](#)

[平成19年度評価結果](#)

[平成17年度評価結果](#)

福祉サービス第三者評価情報 > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > カテゴリー1～7に関する活動成果



カテゴリー1～7に関する活動成果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

にじの会の中期計画(地域展開計画)に基づき、自治体との連携の下、着実に計画実行に取り組んでいる。平成18年2月に三鷹市上連雀に「にじの会ホーム(グループホームレインボーとケアホームにじ)」を開所すると共に、日中活動の場として「未来工房にじアート」(分場)を三鷹市下連雀に開所した。また、18年度は「第2未来工房にじ」の開所に向け取り組んでいる。地域需要に応じた福祉サービスを提供する為、そのような中、大沢にじの里近隣住民約300名にアンケートを実施した。回答者の8割から好意的な意見を得ることが出来た。

工房毎に細かく書かれたマニュアルは、新人職員にとって大きな糧になっている。また、マニュアルの点検は、点検様式を元に年4回1週間かけて行い、活きたマニュアル作成に尽力している。一日の予定や利用者のグループ分けには、写真を使用したボードの利用等、統一したコミュニケーションツールで利用者への働きかけを行い、効果をあげている。通所途上の公共交通機関の利用に際してのマナーや、街中の社会的ルール等に関して「社会生活力プロジェクト」で標語等を活用し継続した支援を行っており、社会生活の能力を身につけることを目指している。

利用者一人ひとりの要求に対し月1回、約1時間半ほど「いろいろ相談室」を開き苦情解決にあたっている。にじの会は地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を踏まえ、自治体との連携体制の維持強化をはかっている。その一環として、地域のNPOといくつかの障害者の作業所が連携し、就労支援、生活支援双方を行う就労支援センターの設立に向けた運営協議会にメンバーとして加わっている。

[このページの一番上へ](#)

8-1-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
- ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
- ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

評点	A <sup>+</sup>
改善の成果	にじの会の中期計画(地域展開計画)に基づき、自治体との連携の下、着実に計画実行に取り組んでいる。平成18年2月に三鷹市上連雀に「にじの会ホーム(グループホームレインボーとケアホームにじ)」を開所すると共に、日中活動の場として「未来工房にじアート」(分場)を三鷹市下連雀に開所した。また、18年度は「第2未来工房にじ」の開所に向け取り組んでいる。地域需要に応じた福祉サービスを提供するため、そのような中、大沢にじの里近隣住民約300名にアンケートを実施した。回答者の8割から好意的な意見を得ることが出来た。

[このページの一番上へ](#)

8-2-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

評点	A
改善の成果	グループホームと分場の開設と自立支援法施行に伴い、「にじの里」と「にじの会ホーム」に新たに主任を配置した。また通所施設「未来工房にじ」でも、生活介護グループと就労支援グループに組織変更し、新たに就労継続担当、生活介護担当の主任を配置した。主任の新設は、新たな管理職としての育成の機会ともなっている。

[このページの一番上へ](#)

8-3-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
- ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

評点	A <sup>+</sup>
改善の成果	工房毎に細かく書かれたマニュアルは、新人職員にとって大きな糧になっている。また、マニュアルの点検は、点検様式を元に年4回1週間かけて行い、活きたマニュアル作成に尽力している。一日の予定や利用者のグループ分けには、写真を使用したボードの利用等、統一したコミュニケーションツールで利用者への働きかけを行い、効果をあげている。所途上の公共交通機関の利用に際してのマナーや、街中の社会的ルール等に関して「社会生活力プロジェクト」で標語等を活用して継続した支援を行っており、個々に応じた支援計画により社会生活の能力を身につけることを目指している。

[このページの一番上へ](#)

8-4-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している

評点	A
改善の成果	グループホーム等の事業展開のための資金約2億円は、寄付金と経常資金余剰で確保できた。自立支援法により支援費が日額化したことにより、月80～100万円近く減少となるなど、かなり厳しい状況が生じている。しかし、予想される収入減は経費削減、

### 8-5-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している

・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境の把握と活用」

評点	A
改善の成果	利用者一人ひとりの相談や要望対し、毎月法人傘下の全ての施設の利用者と職員が「にじの里」に会して行う誕生日会の際に、相談場所を設け1時間30分ほどの時間帯に「いろいろ相談室」の窓口を設け、要望や苦情解決にあたっている。にじの会は地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を踏まえ、自治体との連携体制の維持強化をはかっている。その一環として、地域のNPOといくつかの障害者の作業所が連携し、就労支援、生活支援双方を行う就労支援センターの設立に向けた運営協議会にメンバーとして加わっている。

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービス情報の提供



サービス情報の提供

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

未来工房にじのサービス内容の情報提供方法としては、「ホームページ」、「にじの会パンフレット」、季刊発行の「にじの会だより」、利用者家族向けの毎月発行「未来工房にじだより」がある。ホームページやパンフレットは、施設概要、支援方針、作業内容などが写真を多用して利用者にわかりやすいように作成されており、また一つひとつの製品が詳細に説明されている。にじの会では近年中に第2未来工房にじ開設計画を予定しているため、様々な媒体や出張販売等によりあらゆる角度から積極的に情報公開を行っている。

事業所の最新情報は、「にじの会だより」等で関係機関に提供している。内容は事業報告の他に新規事業の進捗状況、法改正による変更点、近隣住民へ実施したアンケートの結果報告などであり、法人の現在の状況をわかりやすく情報開示している。自治体を始め自治体の福祉事務所、市の社会福祉協議会主催の会議や委員会に参加して、報告する機会も積極的に設けている。たより等は、近隣住民およそ200世帯にポストインしたり、施設入口の掲示板やショップにも置くなどして、開かれた施設づくりの一助となっている。

見学は、週3日の見学日を設定して随時受け入れており、養護学校の先生や家族と共に行われることが多い。養護学校卒業後の利用を考えている方には、体験実習(1ヶ月)がある。作業室入り口には、作業工程が写真を多用して掲示してあり、とてもわかりやすいものとなっている。また法人全体でこれまでに行われたレクリエーションの写真が多く飾られており、見学者等がイメージしやすいよう配慮している。隣接するショップでは、製品を販売したり喫茶コーナーもあるため、より身近に情報を得ることが出来る。

[このページの一番上へ](#)

1-1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している

評点	A
標準項目	○ 利用者が入手できる媒体で、利用者に事業所の情報を提供している
	○ 利用者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○ 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○ 利用者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービスの開始・終了時の対応



サービスの開始・終了時の対応

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

未来工房にじでは成年後見人制度を利用して契約が結べるように制度利用を推奨しており、現在の利用者は家族を中心に全員に後見人が選定されている。利用開始時には、利用者と家族に対して、理事長が契約書、重要事項説明書を元に説明を行い、施設長が運営方針について説明をしている。特に法改正に伴うサービス内容の変更や自己負担金の増加については、年4回行われる施設家族連絡会や広報物を通じて詳細に説明し、同意を得るようにしている。

利用開始時には、利用申込書、健康医療調査表、食事調査表、面談記録や前施設・養護学校などから施設利用前の利用者の情報を得て、急激な生活リズムの変化がないように配慮している。利用開始前には体験実習を行い、その結果を元に作業グループを決定している。未来工房にじでは、作業グループを生活介護グループと就労支援グループに分けて合計10種の作業内容があるためケースワーカーや養護学校と連絡を取り、作業内容を検討して支援を開始している。

17年度には、新たに未来工房にじの分場「にじアート」が開設された。また、同法人が運営するグループホーム・ケアホームも開所したため、利用者の大きな動きがあった。移行にあたっては、作業の内容が視覚的にわかるように、写真やイラストを多用して利用者の理解を得られるように工夫を行った。また、今後法人として新たな作業所の建設予定があり、さらに作業内容が充実していく可能性がある。

[このページの一番上へ](#)

2-1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

評点	A
標準項目	○ サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している
	○ サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている
	○ サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

2-2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点	A
標準項目	○ サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
	○ 利用開始直後には、利用者の不安やストレスを軽減するよう配慮している
	○ サービス利用前の生活をふまえた支援をしている
	○ サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 個別状況に応じた計画策定・記録



個別状況に応じた計画策定・記録

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

個別支援計画については、7～8月に中間見直しを行い、就労能力の向上や身辺自立の拡大、心身の健康維持について検討を行う。年度の総括及び次年度支援計画は、主任、施設長より利用者及び成年後見人に対して説明が行われ、希望、意見を含めて面接結果の記録を行うと共に同意書に署名、捺印をお願いしている。工房間の移動等、計画の変更にあたっては、体験実習を必ず実施し利用者、後見人が納得した上で変更を行っている。

利用者の日中活動記録については、スタッフがパソコン入力月ごとに個人ファイルに保管している。法人では利用者の様子を羅列するのではなく個別支援計画に沿った記録を徹底しているため、全職員が同じ視点で観察・記録できるような仕組みになっている。個別支援計画は専用のソフトを使用しているため、計画ごとの整理や閲覧が可能であり、新たな問題点の発見にも役立っている。法人では施設内LANで他部署の職員も閲覧できる仕組みになっているが、にじアートはネットワーク化されていない。

利用者の状況については、家族からの連絡帳を基本として毎日の朝会で情報を共有し朝会記録に記入している。その他必要な情報については随時回覧を用いる。18年度は、主任・リーダー会議の隔月開催を実施して生活・日中・グループホーム・分場の情報共有を図るとともに、運営に関する提案を積極的に行うことを事業計画とし、実施している。

[このページの一番上へ](#)

3-1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点	A
標準項目	○ 利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している
	○ 利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
	○ アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点	A
標準項目	○ 計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている
	○ 計画を利用者にわかりやすく説明し、同意を得ている
	○ 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている
	○ 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点	A
標準項目	○ 利用者一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある
	○ 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点	A
標準項目	○ 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している
	○ 申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

---

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重



プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

利用者の個人情報保護については、サービス利用開始時に、「個人情報保護に関する基本方針」を説明して、利用目的の通知及び第三者に対する提供に関する同意書を家族(後見人)より得ている。また、施設内掲示、各種機関紙での名前と写真の掲示についても再度同意書を得ており、ホームページ、パンフレット、専門誌記事への写真掲載については、その都度承諾を得る形式をとり、プライバシー保護には細心の注意を払っている。

利用者支援については、支援スタッフ倫理綱領を策定し、生命の尊厳、人権の擁護、個人の尊重、地域社会との関係、専門的な支援について規範としている。人権に関する研修は、新人職員については全員受講を義務付けていると共に、利用者の人権を常に配慮するよう会議や全体会で啓蒙している。帰宅時に痣があった場合にはその原因を解明し、実習生の反省会では特に職員の言動や行動について項目を挙げて聞き取りを行うなど外部の人の視点でも点検を行い、人権侵害の発見・防止に努めている。

利用者特性を配慮して、支援者主導ではなく利用者の立場に立った支援を心がけている。特に言葉でのコミュニケーションが難しい利用者に対しては、自己決定ができるようにカード提示を行っているが、さらに理解を深めるためにコミュニケーションツールについては委員会を設けて学習を深めている。生活支援は全て同性介護・支援であり、完全個室である。職員が居室に入るときには必ずノック・声かけを実施し、トイレ・着替え介助においては、プライバシーが保たれるよう配慮している。利用者の呼称については、「名字にさん付け」を徹底している。

[このページの一番上へ](#)

5-1. 利用者のプライバシー保護を徹底している

評点	A	
標準項目		利用者について他機関へ照会する際、利用者の承諾を得るようにしている
		日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮している
		利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

5-2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している

評点	A	
標準項目		日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)
		利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している
		虐待被害にあった利用者がある場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている
		利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

[平成20年度評価結果](#)

[平成19年度評価結果](#)

[平成17年度評価結果](#)

福祉サービス第三者評価情報 > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 事業所業務の標準化



事業所業務の標準化

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

「未来工房にじ」では、17年発足したマニュアル委員会が日中支援マニュアルを作成し活用している。作成するにあたっては、各スタッフが実態と照らし合わせながら加筆・修正を重ねてきた。マニュアルは工房毎の支援マニュアルの他、送迎、外出、昼食支援についての流れと注意事項が記載されている。特に利用者の安全に大きく影響する外出では、車と徒歩に分かれて詳細に記載されている。マニュアルは3ヶ月に一度点検を行うと共に新人職員が入った場合には、現場と異なる部分がないか新鮮な視点でチェックしてもらうなど活用が徹底している。

職員が一定レベルの知識や技術が学べるように、研修委員会が階層別のプログラムを作成している。特に人権・知識・技術の3つを軸に、現在行っている支援内容について振り返り、判断ができるような研修を推奨している。研修はあらかじめ設定されたものの他、知的障害者へのアプローチ方法等職員が自発的に取り組んでいるテーマについては、派遣も行っている。当施設は、開所4年目であり、職員も様々な経歴で勤務しているため、支援内容にバラつきが出ないよう主任・リーダーが指導にあたっている過程である。

利用者の安全の確保に対しては、法人全体で18年度は重点的に取り組んでおり、入所施設を含めた職員と施設責任者で構成する月1回の安全委員会を中心に検討を重ねている。日常の支援の中で起きた「ヒヤリハット」「事故」の事例については、当事者から今後の対策を含む報告書を提出してもらい、安全委員会ですべて検討している。その中で、業に関すること等特に重要な事項については、赤紙で各部署に配布して注意を喚起している。

[このページの一番上へ](#)

6-1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点	A+	
標準項目	<input type="radio"/>	手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
	<input type="radio"/>	手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている
	<input type="radio"/>	提供しているサービスが定められた基本事項や手順に沿っているかどうかを点検している
	<input type="radio"/>	職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
A+の取り組み	・未来工房にじの日中支援マニュアルは、スタッフ業務マニュアルの他、7つの工房毎のマニュアル、昼食支援、外出支援についてが冊子化されている。マニュアルは1週間の見直し期間を設けて各スタッフがマニュアルを持ち歩き現状との違いについて丁寧なチェックを行い、「生きたマニュアル」を維持し続けている。また、18年度法人が計画としている利用者の安全性確保のために、入浴や外出支援については、掲示物で確認できるよう配慮している。	

[このページの一番上へ](#)

6-2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点	A	
標準項目	<input type="radio"/>	提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
	<input type="radio"/>	提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている
	<input type="radio"/>	職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

6-3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点	A+	
標準項目	<input type="radio"/>	打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている
	<input type="radio"/>	職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している
	<input type="radio"/>	職員全員が、利用者の安全性に配慮した支援ができるようにしている
	<input type="radio"/>	職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している
	<input type="radio"/>	職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている
A+の取り組み	・工房毎に細かく書かれたマニュアルは、新人職員にとって大きな糧になっている。また、マニュアルの点検は、点検様式を元に年4回1週間かけて行い、活きたマニュアル作成に尽力している。一日の予定や利用者のグループ分けには、写真を使用したボードの利用等、統一したコミュニケーションツールで利用者への働きかけを行い、効果をあげている。	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

---

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成20年度評価結果

平成19年度評価結果

平成17年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービスの実施



サービスの実施

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している

講評

知的障害者入所更生施設(にじの里)に併設して、平成15年4月に開設の通所授産施設(未来工房にじ・定員23名)は、平成18年2月に開設した分場(未来工房にじアート・定員16名)が加わったこともあり、就労継続事業(パン・豆腐・織り工房等)と生活介護事業(手づくり・外作業・紙工房等)に編成して、バラエティに富んだ作業種の中から利用者の状態に応じた作業を行っている。更に心身の健康増進を図るため毎日の作業の時間帯中に1時間程度、専任講師による音楽や運動を盛り込み、心身のリフレッシュが図られ作業意欲を盛り立てている。

18年度の事業計画にも、自立と社会参加に向けた取り組みの一つに、「社会的ルールの意義づけと社会性の構築」を掲げている。通所方法でおおよそ6割の利用者がバス等公共交通機関を利用して、通所途上のバス利用マナー等を身につけるために、職員として「社会生活力マナープロジェクト」において、生活面の支援に力を注いでいる。道路は端を歩きます、バス乗場は急がない、割り込みしない等の標語を工房の窓に貼ったり、帰りの会で皆で復しようしている。こうした継続的支援によって、家庭でも挨拶や身だしなみ等社会的マナーが身につけてきた。

17年よりコミュニケーションプロジェクトにおいて、コミュニケーションの取りにくい利用者へ、写真や絵等を用いて視覚的に分かりやすい手段で情報を伝える手法に取り組んでいる。作業グループ毎にメンバーの顔写真と作業内容、手順等を写真や絵で示している。整美グループの場合は廊下の両端にモップ幅のカラーテープを貼り、職員が丁寧に誘導しながら端から端を往復清掃している。悩みや苦情等を聴くために法人傘下施設の利用者、職員が一同に会して行う誕生会の一定時間帯に「いろいろ相談室」を開き、情報提供等もやっている。

評点	A+	
標準項目	○	個別の支援計画に基づいて支援を行っている
	○	利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している
	○	自立生活に必要なさまざまな情報を提供している
	○	必要に応じて対人関係のアドバイス等を行っている
A+の取り組み	・利用者の自立と社会参加を図るため、コミュニケーション能力の向上と社会的マナーの向上に向けて取り組んでいる。特に言葉によるコミュニケーションの困難な利用者には、17年に引き続き「コミュニケーションプロジェクト」で、写真や絵等を用いて視覚的に分かりやすい手段で情報を伝える手法に取り組んでいる。また通所途上の公共交通機関の利用に際してのマナーや、街中の社会的ルール等に関して「社会生活力プロジェクト」で標語等を活用して継続した支援を行っており、個々に応じた支援計画により社会生活の能力を身につけることを目指している。	

[このページの一番上へ](#)

2. 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている

講評

入所施設に併設の通所施設「未来工房にじ」には、就労継続事業(パン工房等4作業)と生活介護事業(手づくり工房等4作業)がある。また分場「にじアート」は織工房と紙工房があり、10種と豊富な作業に運動や音楽を盛り込みバラエティに富んだ活動を行っている。パン工房や食品加工工房では、数種の新製品を開発している。無農薬原材料で季節のジャム等、また、外作業グループが作る腐葉土を地域の農家等に販売、農家からのトマト等季節の野菜や果物を施設に併設のショップでジャム等自主製品と一緒に販売する等、循環型の作業形態ともなっている。

就労継続事業(パン・豆腐・織り工房等)の利用者への作業工賃は、資源を作業に参加した利用者で配分する方式としており、「作業工賃支払規定に、算式方法、作業評価、支払い方法(現金で或いは口座振込み等)、支給日、算定期、賞与等に関して規定している。なお、社会福祉法人にじの会は、「資源を作業に参加した利用者で配分」との基本的考えから、新製品の開発や販路拡大等により当初の想定より収益の伸びがあったため、平成18年10月から作業工賃規定を改定して、利用者の工賃の増額が実現した。

各作業は、日中支援マニュアルを中心に行われており、それぞれの作業手順が示されている。作業の時間帯の中に心身の健康状態の増進を考慮し、音楽、運度プログラムを取り入れている。更に余暇活動として散歩等を取り入れて、気分転換を図りながら作業に集中できるように支援している。また、市の社会福祉協議会内やにじアート(分場)の玄関ロビーで、利用者が食品や織物等の作品を販売しており、直接、接客することで、やる気を得ることができている。就労については、自治体にて活動が予定されている「就労支援センター」への繋がりを期待している。

評点	A+	
	○	授産活動のメニュー等は、利用者の希望や特性により選択できるようにしている
	○	利用者が活動しやすい環境を整えている
	○	利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している

標準項目	○	工賃は利用者との合意に基づいて支給している
	○	利用者の働く意欲を盛り立てる取り組みを行っている
	○	就労可能な利用者には、就労に向けた相談や具体的な支援を行っている
A+の取り組み	・10種類にも及ぶ豊富な作業に運動や音楽を盛り込みバラエティに富んだ活動を行っており、なかでもパン工房や食品加工工場では、毎年数種の新製品を開発している。無農薬原材料で季節のジャム等、また、外作業グループが作る腐葉土を地域の農家等に販売、農家からのトマト等季節の野菜や果物を施設に併設のショップでジャム等自主製品と一緒に販売する等、循環型の作業形態ともなっている。更に販路拡大を積極的に進めており、市の社会福祉協議会玄関ロビーやにじアート(分場)の玄関ロビーでの販売活動により意識高揚と工賃アップに繋がっている。	

[このページの一番上へ](#)

### 3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している

#### 講評

食事は、利用者が楽しみにしている時間でもあり、音楽を流し、話をしながら家庭的な雰囲気できちんと食事ができるように配慮している。食堂の設計段階から障害を持つ親の意向を反映させ、明るい陽の光が存分に入り、特注の木製テーブルや椅子等はぬくもりが感じられる。12月には、家族等に対し食事会を予定しており、その意見も取り入れよりよい食事の提供を目指している。にじアート(分場)では、未来工房にじの厨房から温かいままの食事が運ばれ、利用者が当番制でテーブルクロスを敷き、着並べや盛り付け等をして家庭的雰囲気の中での食事を楽しんでいる。

厨房業務は委託であり、施設の常勤の栄養士が主体性を持って献立をたてている。利用者の健康に配慮しており、個々の状態に合わせて、生活習慣病予防、肥満対策、刻み食等6種の食形態をとり、どうしても食べ過ぎの方には、最初少ない盛り付けでお代わりをする等のことで満足感を満たすような配慮もしている。その他にもサバやエビ等のアレルギー反応者、卵、野菜、酢、納豆等の好き嫌いには代替品を出す等の工夫もしている。なかには主食は6割刻みでおかずは全量刻みという方もあり、一人ひとりの状況に合った食形態をとっている。

献立委員会があり、献立委員が利用者、職員に対し食事アンケート調査を行うなどをして、要望等を聞き、会議で検討している。毎月1回の誕生日会での特別メニューには、利用者の意見を取り入れたり、季節の物を取り入れるなどして献立にバリエーションを加えて提供している。パン食の時にはパン工房から、豆腐料理の時には、豆腐工房から購入することで、授産施設で働く利用者の意欲を盛り上げることに繋がっている。「にじの里」の食堂では、入所、通所の利用者が一緒に、分場「にじアート」でも職員と利用者で会話を交えながら食事を楽しんでいる。

評点	A	
標準項目	○	利用者の希望や職員の意見を反映し、バラエティーに富んだ飽きのこない食事を提供している
	○	利用者の状態やペースに合わせて食事がとれるよう、必要な支援を行っている
	○	食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

### 4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている

#### 講評

平成18年度の事業計画の一つに「利用者の自立と社会参加に向けた取り組み」を掲げ、作業や活動等を通してより良い生活の実現、その他に社会的ルールの意義づけと社会性を身につける。ことを支援の大きな目標として取り組んでいる。毎日の作業においては豆腐工房等は、壁面タイルの色彩に至るまで衛生管理に配慮した造りで、利用者も入り口で手洗いから衣服の着替え等、利用者同士でチェックするなど徹底した衛生管理を行っている。また外販活動における接客や公共交通機関利用等の際の社会マナーを身につけるための支援にも力点を置いている。

分場(にじアート)は、16名と少人数での活動のため、利用者が協力して清掃や入所施設(にじの里)の厨房から運ばれる昼食の準備を行う等、皆で協力しながら、身のまわりのことは自分ですという自覚が出てきた。その他にも当初、母親の付き添いを要していたがその要がなくなる等自立度が見られるようになった。安全委員会を毎月開催して毎月の目標を定め、利用者の手作りポスター(9月防災月間等季節に応じて)を作成し工房の入り口等に掲示し、視覚的にも分かるようにして意識づけを行い、安心・安全な作業環境に努めている。

通所授産利用者の支援の仕方を統一するために基本事項を網羅した「日中支援マニュアル」を作成している。マニュアルは、パン工房、豆腐工房、織工房等各作業ごとに支援の方法が示されている。作業中の工房等では、手洗い、身だしなみの声かけや休憩中の水分補給、トイレの声かけ誘導をしている。作業中に会話の中でさりげなく「手が止まっている・・・」などと声掛けをしながら作業を促している。何れの工房やグループにおいても利用者は明るく、楽しい雰囲気の中で作業しており、利用者のペースに合わせてゆっくりと時間をかけて取り組まれている。

評点	A	
標準項目	○	利用者の状態やペースに合わせて、日常生活上の必要な支援を行っている
	○	必要に応じて、身の回りのことは自分でできるよう働きかけている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

### 5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

## 講評

嚙託医師が毎週1回相談日を設けて健康管理を行っている。更に高度医療を担う特定機能病院の機能を有する近隣の大学付属病院が協力医療機関として急変時等にも速やかな対応が出来る体制が整っている。更に3名の嚙託医(内科・歯科・精神科)が日常的に健康管理にあたっている。年2回の定期健康診断(レントゲン、内科検診)、年1回の歯科検診を行っている。常勤の2名の看護師が医療機関との円滑な連携を図っている。3ヶ月ごとに健康衛生委員会が体重測定を実施、また歯科医の歯磨き指導を受けた職員が利用者の歯磨き支援を行っている。

感染症対策マニュアル、症状別対応マニュアル、与薬マニュアル等が作成されている。特に、豆腐工房やパン工房及び食品加工等では食品を取り扱っているため利用者及び職員は定期的に細菌検査をしている。またインフルエンザの予防接種等をするなど感染予防及び徹底した衛生管理に努めている。服薬管理は看護師が行い、与薬マニュアルに従い看護師が確認し、与薬担当スタッフが配薬し飲んだことを確認して空の袋を医務室に戻し、看護師が最終的に確認する等、複数段階のチェックを行うことで誤薬防止に努めている。

入所更生施設の「にじの里」で行う嚙託医による内科・歯科・精神科等医療に関する健診・相談等の祭に、通所授産施設利用者も診てもらえるようになっており、こうした一体的な医療体制により病気が大幅に減少した。体調急変時は事前に家族から聞いている指定の医療機関か、或いは協力医療機関に連絡し診察を依頼している。看護師は家族等と連絡帳、電話等で連携を取っており、相談にも対応している。職員に対しても救急救命の研修を実施しており、医務室に吸引器等が設置してあり、職員全員に取り扱いの研修を行っている。

評点	A <sup>+</sup>
標準項目	○ 健康状態に関して、利用者の相談に応じ、必要に応じて利用者や家族に説明をしている
	○ 必要に応じて、通院や服薬等に対する助言や支援を行っている
	○ 服薬管理は誤りがないようチェック体制を整えている
	○ 利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている
A+の取り組み	・常勤2名の看護師と3名の嚙託医(内科・歯科・精神科)が日常的に健康管理に当たっている。週1回の内科医、月1回の精神科医、歯科医による相談等で、生活習慣病の改善が図られ、歯科医による虫歯予防や口腔衛生等を含め健康の維持増進と疾病予防に努めている。こうした「医療」も「食事」も併設の入所更生施設(にじの里)の体制を併用している。なお、看護師は連絡帳や電話等で家族と連携をとっており相談にも対応している。こうしたことで病気が大幅に減り家庭における衛生管理及び健康管理に対し喚起づけとなっている。

[このページの一番上へ](#)

## 6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

### 講評

帰りの会等は職員がフォローするなかで複数の利用者が進めている。各グループの活動内容を率先して或いは勇気をもって発表するなどした後に、皆で考えた「マナー標語」(「どうははじめをあるきます・あいさつをします等)を大きな声で読み上げ、身支度を整え玄関或いは門で職員の見送りのなか家路につくことが日課となっている。法人傘下の施設の全ての利用者・職員が一同に会しての「誕生日会」でも利用者の司会と、パン工房でこの日のために腕によりをかけて亀をあしらったケーキをプレゼントする等あらゆる場面にのびのびとした楽しさが溢れている。

行事やイベントも数多く催されている。恒例の一泊旅行も18年は北関東方面で風景や動物との触れ合いを楽しんだ。その他にも市の福祉バスで日帰りのぶどう狩を行った。近くのサッカー場からプロ選手の訪問による交流や、文化行事として市の公会堂でオペラシアターの公演があり、その際に利用者も踊りを披露、併せて地元中学校の吹奏楽部の演奏等もあり、観て、出演しての楽しさをしている。その他にも地域のコミュニティセンター祭にも参加するなど地域に溶け込んだ活動をしている。

「にじの里」に併設の「未来工房にじ」の授産環境等は、「にじの里」と同様に、設計の段階から職員が他の施設を数多く見学して、良い点等を参考に、採光や換気、段差、トイレの広さや臭気対策等に気配りした施設設備となっている。特に豆腐工房は、毛髪の付着を見逃さないよう壁面を天井まで白タイル張りとし、床はコンクリートにする等、衛生的な工房で作業をしている。分場(未来工房にじアート)は専門学校の校舎を借用して改造し織工房と紙工房として活用しているため、「未来工房にじ」に比べれば十分な授産環境とは言えない面もある。

評点	A
標準項目	○ 行事やレクリエーションのプログラムは、利用者の特性や嗜好を考慮し、多様な体験ができるようにしている
	○ 室内は、採光、換気、清潔性など居心地のよい環境となるようにしている
	○ 日常生活に関するきまりごとについては、利用者等の意見を参考にして見直しをしている
	○ 利用者同士が意見を言う機会があり、その意見等を施設運営に反映できるようしくみを整えている
	○ 行事やイベントの企画・準備は利用者も参加して行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

## 7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

### 講評

施設家族連絡会を3ヶ月毎(6月、9月、12月、3月)に行っている。連絡会には理事長が先頭になって施設長はじめ関係職員も出席して、会場の運営方針や事業計画及び事業報告等、その時々に応じた事項を資料を配布するなどして説明し、質疑応答が交わされている。会議終了後、利用者の日中活動の様子を見学、また日頃の授産活動や日中の様子のビデオ撮り映像を観てもらっている。その他に行事や旅行の際の写真も家族の注文に応じて販売している。また利用者の作業種の変更要望があった場合にも家族の意向を確認して面

談で対応している。

紙ベースで、法人にじの会として「にじの会だより」を発行し、法人の運営方針や法人傘下施設の利用者の様子等を掲載している。その他に通所授産施設独自で「未来工房にじだより」を毎月発行している。記事の構成は、1ヶ月の月中活動と行事予定表一覧、その時々話題や新たな授産活動の様子等から成っている。記事の一例として、18年8月から市の社会福祉協議会の福祉会館でパン工房等のパン、豆腐、ジャム等の食品の外販に関する記事を掲載。こうした広報誌は家族や関係機関等に配布している。

駅に近く街中にある分場(未来工房にじアート)では、16名の利用者が織工房と紙工房で授産活動をしている。織工房で織られた織物を「結の会」のボランティアがバックに仕上げ、分場のオリジナル製品化に携わっている。この織工房の製品は、紙工房の紙製品や、にじの里に併設の「未来工房にじ」の食品、パンや豆腐、ジャムなどと一緒に毎週金曜日の午後2時30分から午後4時30分の間、玄関ロビーに陳列し販売している。家族は行事等の時にも販売などに参加するなど、良好な協力体制がとられている。

評点	A
標準項目	○ 家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている
	○ 利用者の日常の様子や施設の現況を家族等へ知らせる手段を整えている
	○ 必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

## 8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

### 講評

地域の方々に広く知ってもらえるよう、地域のコミュニティセンター祭など地域で行われる行事に積極的に参加している。またすぐ近くにある大沢コミュニティセンター(住民自治による公的施設)の図書室や近隣の体育館を活用している。また近隣の公設の植物公園等へも僅かな時間を見つけては散歩している。小中学校との交流もあり、地域との交流は密に行っている。なお毎年11月の恒例行事「にじの会のまつり」には利用者・家族・地域の他に総勢400名を超える地域の方々が参加し、その方々による出しものもあり地域との交流の良い機会となっている。

通りに面して建つ木造のショップ「オー・ソレ・ミオ」では、工房で作ったパン、ジャム、豆腐等の食品に加えて近隣の農家から収穫した季節の野菜も店頭並び、喫茶席では時にはピアノの生演奏を聴きながらの喫茶で賑わいをみせている。ショップ利用の近隣の方々からは土曜日・日曜日の開店や、新製品に対するリクエストも寄せられるほどの人気を博している。また、街中の分場(未来工房にじ)でも毎週金曜日の午後後に玄関ロビーでの製品販売等を通じ商店の方々との交流が出てきた。

「住み慣れた地域の中で、生活のできる施設づくり」として、17年グループホーム「レインボー」・ケアホーム「にじ」の開設に続き、18年度は「第2未来工房にじ」の開設に向け取り組んでいる。そうした中、地域とのより良い関係づくりを模索するために周辺の約300世帯にアンケート調査を行った。内容は、にじの会の利用者、役員や日常活動、行事等で不安や迷惑等の有無を中心に近隣からの意見・要望等の把握を行った。回収(約40%)の内約85%の方が「不安や迷惑を感じることはない」との回答を得た。また集計結果を住民の方に配布した。

評点	A
標準項目	○ 地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している
	○ 必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.